



2025年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月7日

上場会社名 K O Z Oホールディングス株式会社 上場取引所 東
コード番号 9973 URL <https://kozohd.co.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）森下 將典
問合せ先責任者 （役職名）取締役管理本部長 （氏名）毛利 謙久 TEL 03-4586-1122
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無： 無
決算説明会開催の有無： 無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年12月期第3四半期の連結業績（2025年1月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2025年12月期第3四半期	14,102	7.9	△260	—	△239	—	△292	—
2024年12月期第3四半期	13,072	52.8	△327	—	△311	—	△351	—

（注）包括利益 2025年12月期第3四半期 △335百万円（－％） 2024年12月期第3四半期 △396百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期第3四半期	△1.12	—
2024年12月期第3四半期	△1.58	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2025年12月期第3四半期	5,175	825	15.5	2.72
2024年12月期	6,000	129	1.8	0.44

（参考）自己資本 2025年12月期第3四半期 800百万円 2024年12月期 105百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年12月期	—	0.00	—		
2025年12月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	20,200	11.5	22	—	27	—	△38	—	△0.15

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

新規 ー社
(社名) ー

除外 ー社
(社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年12月期 3 Q	294, 621, 340株	2024年12月期	239, 821, 340株
② 期末自己株式数	2025年12月期 3 Q	6, 866株	2024年12月期	6, 866株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年12月期 3 Q	260, 917, 707株	2024年12月期 3 Q	223, 336, 814株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点における経営環境において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(重要な後発事象)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間（2025年1月1日～2025年9月30日）におけるわが国経済は、国内経済は引き続き回復基調を維持しているものの、そのペースは鈍化傾向を示しております。個人消費は物価上昇や円安による購買力の低下から伸び悩み、企業活動においても、資材価格やエネルギーコストの高止まり、海外経済の不透明感などが収益を圧迫する要因となっております。一方で、インバウンド需要や設備投資の一部には底堅さが見られるなど、明るい動きもみられましたが、全体としては先行きに慎重な姿勢が続いております。

このような環境下において、当社グループは「小売事業」「飲食事業」「流通事業」の3本柱を事業の軸として、「多様な食を、多様な形で、多様な顧客へ」という基本方針のもと、事業間のクロスオーバーによる付加価値の創出、海外市場への事業展開、新規店舗開発及び、前連結会計年度に決定しました不採算店舗の閉鎖による各事業の収益性改善と事業効率化を推進してまいりました。

以下に、各事業の主な取り組み内容と成果を記載いたします。

なお、当第3四半期連結累計期間において、各セグメント損益の実態をより適切に反映させるため、全社費用の配賦基準を変更しており、前第3四半期連結累計期間の数値を変更後の配賦基準に組み替えた数値で比較分析しております。

[小売事業]

中核企業である株式会社小僧寿し（以下「小僧寿し」といいます。）では、収益性が減退した店舗の撤退を進める一方で、地方圏へのドミナント出店や、スーパーマーケット・小売販売店へのインストア出店を進め、採算性の低い店舗の撤退と並行した新たな収益店舗を開発する「リプレイス出店戦略」を推進しております。当該戦略の一環として、小僧寿しでは2024年11月に西日本を中心に展開するFC加盟店19店舗の事業を譲受、直営事業を拡充いたしました。また、新たに直営事業化した西日本店舗における物流効率化を図り、中長期における更なるコスト圧縮を見据えた改善を想定し、この取り組み結果が10月以降に発生する見通しです。

上記記載の理由に伴い、前年同期と比較し売上高が増加しておりますが、一方で、2024年7月1日付で実施いたしました当社の持株会社化によるグループのコスト配分の調整を行った結果、小売事業におけるコストが増加しております。この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は33億26百万円（前年同期比 3.3%増）、セグメント損失は79百万円（前年同期は54百万円のセグメント損失）となりました。

[飲食事業]

中核企業であるアスラポート株式会社（以下「アスラポート」といいます。）では、ゴーストレストランによるデリバリー販売を圧縮し、収益性及びオペレーション効率を重視した運営方針へと転換を図り、当該レストランによる売上高は減少したものの、収益性の改善が図られております。一方で、同社が運営するラーメン業態「どさん子」ラーメンの北海道タンメン業態「ベジ達」及び、鶏料理の居酒屋業態「とり鉄」において、新規出店を実施した点、並びに、2024年5月に連結子会社といたしました海外事業の売上が業績に寄与したことから、前年同期と比較し、増収となっております。

また一方で、メキシカン・ファストフード「TacoBell」を展開する株式会社TBJ（以下「TBJ」といいます。）では、昨年より再開した出店戦略並びに著名なタレントやインフルエンサー等との積極的なコラボレーション展開により、幅広い世代への認知度が上昇しており、売上高・収益が前年同期と比較し増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は45億40百万円（前年同期比 20.1%増）、セグメント損失は63百万円（前年同期は97百万円のセグメント損失）となりました。

[流通事業]

中核企業である東洋商事株式会社（以下「東洋商事」といいます。）では、食材卸売事業の強化を目的に、一般貨物自動車運送業の認可及び、配送体制の拡充を行い、物流インフラの整備を進めました。

株式会社デリズ（以下「デリズ」といいます。）では、フード・デリバリー業界の競争激化に伴い、収益性の減退した店舗の閉鎖を完了しております。また、新たな事業として、SaaS型プラットフォーム「D e l i x（呼称：デリックス）」を核とした新サービスの提供を当期より開始し、2025年9月末の段階において、100アカウント超の導入に至っております。

上記の取組みの他、デリズによる不採算店の閉鎖実施及び、中核企業である東洋商事において、原材料価格の高騰の影響が収益性を圧迫したこと等により、売上高は73億94百万円（前年同期比 3.0%減）、セグメント損失は92百万円（前年同期は1億12百万円のセグメント損失）となりました。

〔海外事業〕

当社は2024年5月度に、北米におけるテイクアウト寿司業態「SUSHI BOY」を展開するSUSHI BOY, INC. 及びその親会社であるASRAPPORT DINING USA, INC. を連結子会社化し、また同年6月には、英国においてJapan Centre Group Limited（以下「JCG」といいます。）及びKozosushi UK Limitedとの三者間による資本業務提携契約を締結することで、持分法適用会社としております。これにより、欧州・英国を拠点とした当社ブランドの海外展開が本格化しており、この取り組みの一環として、2025年6月には、英国において日本食・日本文化の発信拠点として複数の事業を展開するJCGがロンドン・ウェストエンドに展開する旗艦スーパーマーケット「Japan Centre」及び、ロンドン・ウェストフィールドに展開するヨーロッパ最大級の日本食ホール「Ichiba」において、持ち帰り寿司「小僧寿司」を展開するためのフランチャイズ契約を締結し、両施設において販売を開始しており、今後更なる欧州圏における出店を想定した取り組みを進めております。

当第3四半期連結累計期間における業績ハイライトは下記となります。

〔業績ハイライト〕

① 当第3四半期連結累計期間における連結業績

項 目	業 績	前年同期比較
売上高	141億2百万円	前年同期比 7.9%増加
営業損益	△2億60百万円	前年同期は △3億27百万円
経常損益	△2億39百万円	前年同期は △3億11百万円
親会社株主に帰属する四半期純損益	△2億92百万円	前年同期は △3億51百万円

経常利益に関しましては、海外事業会社に対する債権債務において、2025年中間連結会計期間までに、為替差益10百万円を計上していましたが、ユーロに対する為替レートが円安に移行したために、当第3四半期連結累計期間における為替差益は25百万円と増加しております。

② 第3四半期連結累計期間におけるセグメント別業績

〔事業セグメント〕	売上高		セグメント損益		店舗・拠点数	
	実績	前年同期比	実績	前年同期	実績	前年同期比
小売事業	33億26百万円	3.3%増加	△79百万円	△54百万円	162店舗	2店舗増
飲食事業	45億40百万円	20.1%増加	△63百万円	△97百万円	278店舗	1店舗減少
流通事業	73億94百万円	3.0%減少	△92百万円	△1億12百万円	84拠点	7拠点減少
(調整額)	△11億58百万円	—	△24百万円	△63百万円	—	—

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は51億75百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億24百万円の減少となりました。

主な要因としては、短期貸付金が70百万円増加したことに対して、現金及び預金が5億98百万円、受取手形及び売掛金が2億60百万円、商品及び製品、棚卸資産が53百万円減少したこと等によるものです。

負債合計は43億50百万円となり、前連結会計年度末に比べ15億20百万円の減少となりました。

主な要因としては、買掛金が8億24百万円、未払金が3億20百万円、長期借入金が2億12百万円減少したことによるものです。純資産合計は、新株予約権の行使により10億25百万円増加したものの、親会社株主による四半期純損失2億92百万円を計上したこと等により、8億25百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は、原材料価格の高騰やエネルギーコストの高止まりなど、外部要因の変動に起因した収益への圧迫要因が顕在化しており、通期の連結業績予想に対する進捗が遅れております。一方で、当社グループの業績は通年、第4四半期連結会計期間に需要が高まる傾向があり、通期においては下期偏重の収益構造となっております。現時点において、当該第4四半期の需要増加に伴う影響の算定を進めていると同時に、下期に発生を見込む、物流コストの圧縮など、収益改善の効果を見込んでいることから、2025年12月期の業績予想は、2025年2月14日開示の「2024年12月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」記載の連結業績予想を据え置いておりますが、今後、見通しに重要な変化が生じた場合には速やかに見直しを行ってまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,125,378	526,520
受取手形及び売掛金	1,426,258	1,165,509
商品及び製品	565,206	549,106
仕掛品	20,199	12,491
原材料及び貯蔵品	70,419	40,804
短期貸付金	124,134	194,414
その他	304,878	331,798
貸倒引当金	△144,037	△133,769
流動資産合計	3,492,437	2,686,876
固定資産		
有形固定資産	902,238	918,388
無形固定資産		
ソフトウェア	1,935	10,554
のれん	615,570	576,972
その他	5,303	5,284
無形固定資産合計	622,809	592,811
投資その他の資産		
投資有価証券	16,010	16,010
敷金及び保証金	813,733	789,043
破産債権等に準ずる債権	257,578	264,555
長期貸付金	93,600	92,096
繰延税金資産	1,607	1,607
その他	216,512	228,258
貸倒引当金	△416,864	△414,717
投資その他の資産合計	982,177	976,854
固定資産合計	2,507,225	2,488,055
繰延資産	641	641
資産合計	6,000,304	5,175,572

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,286,036	1,461,692
短期借入金	100	15,942
1年内返済予定の長期借入金	204,788	211,376
1年内償還予定の社債	—	25,000
未払金	732,139	411,549
契約負債	39,009	15,055
未払法人税等	50,485	31,121
未払消費税等	100,562	121,639
賞与引当金	12,813	17,378
店舗閉鎖損失引当金	37,576	8,778
その他	525,041	403,643
流動負債合計	3,988,553	2,723,176
固定負債		
長期借入金	820,671	607,916
リース債務	81,400	69,137
資産除去債務	573,867	553,723
その他	406,200	396,161
固定負債合計	1,882,140	1,626,939
負債合計	5,870,693	4,350,116
純資産の部		
株主資本		
資本金	413,218	928,708
資本剰余金	861,522	1,377,012
利益剰余金	△1,132,791	△1,425,407
自己株式	△7,435	△7,435
株主資本合計	134,513	872,877
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	316	316
為替換算調整勘定	△29,529	△72,356
その他の包括利益累計額合計	△29,212	△72,040
新株予約権	699	1,149
非支配株主持分	23,610	23,469
純資産合計	129,610	825,456
負債純資産合計	6,000,304	5,175,572

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
売上高	13,072,320	14,102,944
売上原価	8,203,318	8,634,879
売上総利益	4,869,001	5,468,065
販売費及び一般管理費	5,196,096	5,728,424
営業損失(△)	△327,094	△260,359
営業外収益		
受取利息	9,142	6,827
為替差益	25,913	25,588
その他	20,842	15,554
営業外収益合計	55,899	47,969
営業外費用		
支払利息	24,576	18,612
支払手数料	—	2,500
その他	16,042	6,419
営業外費用合計	40,618	27,531
経常損失(△)	△311,814	△239,921
特別利益		
その他	1,248	—
特別利益合計	1,248	—
特別損失		
店舗閉鎖損失	7,081	23,997
特別損失合計	7,081	23,997
税金等調整前四半期純損失(△)	△317,646	△263,919
法人税、住民税及び事業税	33,859	29,252
法人税等調整額	765	△414
法人税等合計	34,625	28,837
四半期純損失(△)	△352,271	△292,757
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△350	△141
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△351,921	△292,616

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
四半期純損失(△)	△352,271	△292,757
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△944	—
為替換算調整勘定	△43,001	△42,826
その他の包括利益合計	△43,945	△42,826
四半期包括利益	△396,217	△335,583
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△395,866	△335,442
非支配株主に係る四半期包括利益	△350	△141

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

第15回新株予約権（行使価額修正条項付）の行使により、発行済株式総数が54,800,000株、資本金が515,489千円、資本準備金が515,489千円それぞれ増加しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
減価償却費	56,537千円	63,629千円
のれんの償却費	40,892千円	56,083千円

(セグメント情報等の注記)

[セグメント情報]

I 前第3四半期連結累計期間(自2024年1月1日至2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 1
	小売事業	流通事業	飲食事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	2,918,407	6,373,309	3,779,354	13,071,071	1,248	13,072,320
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	301,959	1,252,977	—	1,554,937	△1,554,937	—
計	3,220,367	7,626,287	3,779,354	14,626,008	△1,553,688	13,072,320
セグメント損失 (△)	△54,276	△112,249	△97,406	△263,932	△63,162	△327,094

(注) 1. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの資産に関する情報

セグメント資産及び負債については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための検討対象とはなっていないため、記載しておりません。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「飲食事業」セグメントにおいて、ASRAPORT DINING USA, INC 及びSUSHI BOY, INCを子会社化したことにより、当第3四半期連結累計期間において、303,820千円のものれんが発生しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2025年1月1日至2025年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 1
	小売事業	流通事業	飲食事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	3,117,552	6,429,446	4,540,430	14,087,428	15,515	14,102,944
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	208,652	965,107	—	1,173,759	△1,173,759	—
計	3,326,204	7,394,553	4,540,430	15,261,188	△1,158,244	14,102,944
セグメント損失 (△)	△79,557	△92,202	△63,813	△235,573	△24,785	△260,359

(注) 1. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結累計期間より、各セグメント損益の実態をより適切に反映させるため、全社費用の配賦基準を変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の配賦基準に基づいて作成しております。

3. 報告セグメントの資産に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。